

I 学校の概要

アクティブ・ラーニング研究推進モデル校事業

さぬき市立さぬき南中学校

◆生徒数及び教員数

○生徒数

第1学年	第2学年	第3学年	特別支援	全校
4学級 116名	4学級 123名	5学級 146名	2学級 6名	15学級 391名

○教員数

30名

◆学校の特徴

本校は、平成25年4月、大川第一中学校と天王中学校が統合してできた、開校6年目の新しい学校である。開校3年目の平成27年4月には津田中学校と再統合し、校区が広域となったため、約3分の1の生徒がスクールバスで通学している。本校の生徒はまじめで、授業や諸行事、部活動に真剣に取り組むことができ、多くの部活動が地区大会で優勝するなど、大きな成果を収めている。しかし、友人関係や家庭環境等に課題があり、自己肯定感が低く、自分に自信がない生徒も少なくない。県学習状況調査の質問紙調査の結果からも、主体性の育成や自尊感情の高揚が大きな学校課題の一つとなっている。

そこで昨年度よりアクティブ・ラーニング研究推進モデル校事業の指定を受け、従来の研究体制を再構築し、話し合い活動を通してなかまと積極的にかわり、主体的に行動できる生徒の育成を目指して実践研究を進めることとした。

II 研究主題等

研究主題

なかまと協働し、主体的に行動できる生徒の育成
～話し合い活動を軸として～

◆研究主題設定の理由

国際化、ICT化、少子高齢化など急速に進む社会の変化の中で、自己実現を図るためには、課題と向き合い、課題を乗り越えて目標を達成しようとしたり、他者と意見を交わし、互いに協力しながら課題解決に当たったりする態度を身に付けることが重要である。本校生徒はまじめで、係や委員の仕事など、自分の役割をきちんと遂行しており、「人の気持ちがわかる人間になりたい」「人の役に立つ人間になりたい」という思いを強く持っている。しかし、自己肯定感が低く、自分に自信を持っていないため、自己実現に向かって努力し続けることに困難を感じている生徒も少なくない。

そこで、話し合い活動を様々な場面で設定し、なかまとともに共通の課題を解決し、目標を達成する成功体験を通して自尊感情を高め、何事にも主体的に行動できる生徒の育成を図ることとし、本主題を設定した。

◆研究内容及び方法

(1) 研究の内容

本校生徒が活力を持って取り組んでいる活動である学校行事・生徒会行事（「体育祭」「合唱コンクール」「読み聞かせ（1年）」「職場体験学習（2年）」「修学旅行を中心とした平和学習（3年）」など）を核として、その活動がさらに生徒の主体性や協働性を高められるようにする。そのために、特別活動、道徳、総合的な学習の時間、各教科等の内容や計画を見直し、その中に話し合い活動を取り入れ、アクティブ・ラーニングを強化し、学校行事・生徒会行事との連動を図る。この一連の活動の中で、研究主題の実現に向けて以下の5つの内容で、研究実践を進めることにした。

- ① 「基礎学力向上プラン」をもとに、学習意欲の向上と基礎学力の定着を図り、アクティブ・ラーニングを通して思考力や表現力の育成を目指す。【チーム「学」】
- ② 各行事に向けた話し合い活動と各学級の課題をもとに学級をよりよくするための話し合い活動の二つ柱に自発的・自治的な学級づくりを目指す。【チーム「繋」】
- ③ 行事と関連させた道徳を実践し、心情面の醸成を目指す。【チーム「心」】
- ④ 生徒の内省や価値づけを促すためのポートフォリオを開発する。【チーム「実」】
- ⑤ 生徒会活動をより生徒中心の活動にするための実践研究をする。【生徒会活動充実部会】

(2) 身に付けたい力「社会人基礎力」

社会を取り巻く環境は、今、大きな変化の波を受けている。このような変化に対応できる社会人が求められており、そのような時代の要請を受け、経済産業省では、これからの職場や社会の中で多様な人々とともに仕事を行っていく上で必要な基盤的能力を「社会人基礎力」として提唱し、その育成の普及を図っている。

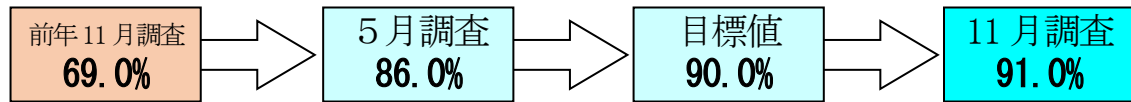
「社会人基礎力」は「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の3つに大きく分けられる。また、その力に加え、公益社団法人経済同友会が「これからの企業・社会がもつめる人材像と大学への期待～個人の資質能力を高め、組織を活かした競争力の向上～」の中で、「困難から逃げずにそれに向き合い、乗り越える力」を求めている。これら4つの力を「社会人基礎力」として捉え、中学生の発達段階に合わせて、本校生徒の身に付けたい力とし、それらを以下のように整理した。

「考え抜く力」	計画力	ものごとに取り組むとき、目的達成のために必要な情報(道具、人の意見、メディアの情報など)を集めることができる。 ものごとに取り組むとき、成果の見直しをもって計画をたてることができる。
	創造力	ものごとに取り組むとき、問題点に気づき、解決策を考えることができる。 ものごとに取り組むとき、これまでのやり方にとらわれず、よりよいものを作ろうとアイデアを出すことができる。
「前に踏み出す力」	主体性	目標を持って努力することができる。 ものごとに率先して取り組むことができる。
	働きかけ力	みんなで決めた目標を達成させるため、なにかまに声をかけ、共に行動ができる。 より良い方法を見つけたり、考えついたりしたときに、なにかまに声をかけ、共に行動ができる。
	実行力	ものごとに取り組むとき、目標達成のために必要なことは時間や労を惜しまず行動することができる。 上手くいかないことがあるとき、資料を調べたり、自分で考えたり、人と話し合っ解決しようとする。
「チームで働く力」	発信力	ものごとに取り組むとき、考えたことや思ったことをわかりやすく伝えることができる。 人と意見が違っても、正しいと思うことは主張できる。
	傾聴力 <small>傾聴力</small>	人の意見を一生懸命に聞くことができる。 意見や考えがちがっても、相手の意見や考えを認めることができる。
	柔軟性	失敗したり、間違ったりしたときは、素直に謝ったり、誤りを認めたりすることができる。 ものごとに取り組むとき、自分の考えだけにとらわれず、人の意見に耳を傾け、よりよい方法を見つけることができる。
	状況把握	ものごとに取り組むとき、協力して目的を達成するために自分がすべき役割がわかる。 ものごとに取り組むとき、自分のことより全体のことを考えて、その場に応じた発信・行動ができる。
	規律性	学級や学校のきまりを守って生活できる。 行動をともにするなかまに嫌な思いをさせないようマナーを守って行動できる。
「困難から逃げずにそれに向き合い乗り越える力」	忍耐力	苦手なことや困難にあっても、あきらめずに最後まで取り組むことができる。
	度胸	多少失敗しても、動じず気持ちを切り替えて活動することができる。

◆指標設定と達成に向けた取組

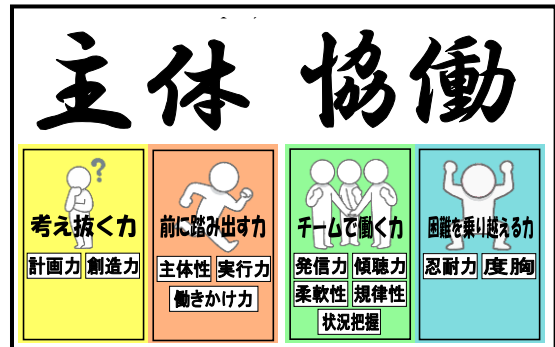
1 (生徒質問紙) クラスのなかまと、協力して行動することができる。

指標 「①そう思う」のみ

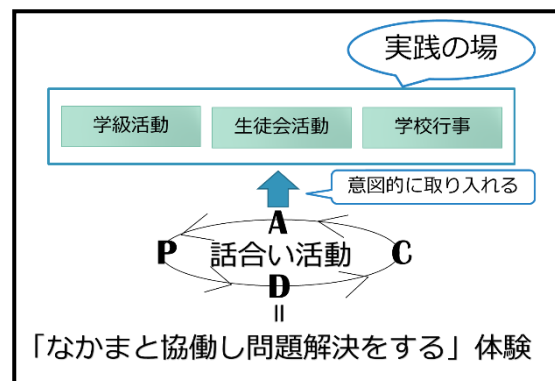


★なかまと協働し問題解決を行う話し合い活動

本校の取組を通して生徒に身に付けさせたい力は、大きくは「主体」と「協働」の力である。それをさらに具体的に整理したのが右の図である。これは経済産業省がこれからの職場や社会の中で多様な人々とともに仕事を行っていく上で必要な基盤的能力として提唱している「社会人基礎力」を基にして細かく12の力に整理したものである。

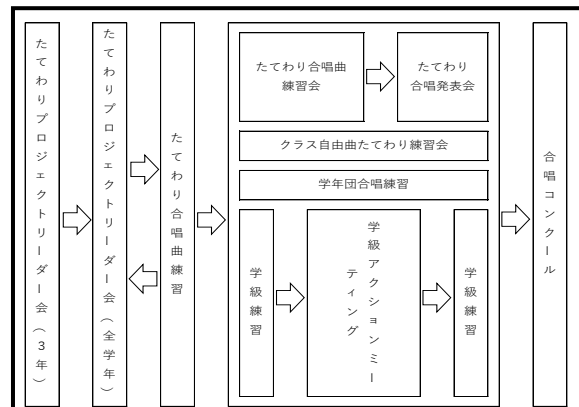
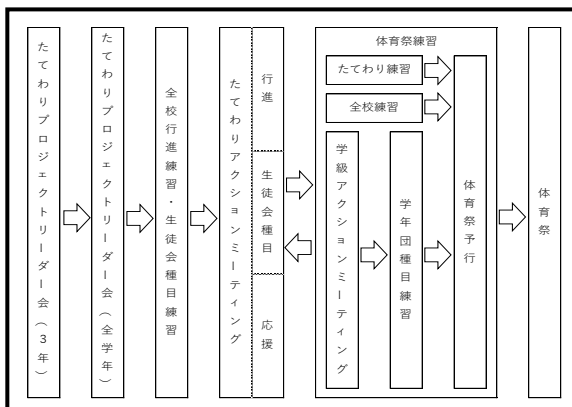


「主体」と「協働」の力を身に付けさせるため、本校では特別活動を中心に据え、各教科や総合的な学習の時間、道徳を関連させ、学校生活の様々な場面を実践の場と捉え、実践に向けて話し合い活動を意図的に取り入れることにした。そこでは、実践をより充実させるために、PDCAサイクルを意識すること、なかまと協働し問題解決する体験となることの2つを意識し、話し合い活動を工夫して行っている。この取組を3年間計画的に実践することで、「主体」と「協働」の力を高めたいと考えている。(本校では、この話し合い活動のことをアクションミーティングと呼んでる。)



★行事(体育祭・合唱コンクール)を実践の場面と捉えた取り組み【たてわりプロジェクト】

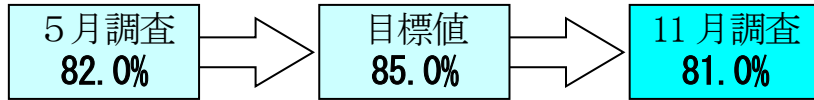
体育祭や合唱コンクールはそもそも、生徒たちが活動を楽しみにしている行事である。以下の図のように、PDCAサイクルを意識し、実践の場に向けて、練習や話し合い活動を計画的に実践する。そのときに、3年生をリーダーとして、たてわりで協力して話し合いや練習を行う。生徒たちは、体育祭で良い点を取ることに、団種目で勝つこと、合唱コンクールでより良い合唱を作ることなど目標に、より主体的に協働して実践を進めていくことができている。



◆指標設定と達成に向けた取組

2 (生徒質問紙) 学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを広げたり、深めたりすることができていますか。

指標 「①できている+②どちらかといえはできる」の合計



★クラスをより良くするための話し合い活動【学級力向上アクションミーティング】

学級の現状と課題を数値的に評価するための学級力アンケートを実施し、それをもとにレーダーチャートを作成する。その結果から、教師と生徒が学級作りの成果と課題を話し合い、これからの学級力向上の取組のアイデア（課題を克服するための対策）を出し合う会議を行う。

(1) ゴールを共有することで話し合いを深める

年度当初の学級開きの中で、理想のクラスについて、意見を出し合う活動を行っている。この理想のクラス像が話し合いの中で、よりどころとなる。対策を出し合うときに、様々な意見が出される。よく出る対策は、「〇〇ができなければ罰を与える」、「〇〇ができたらご褒美を与える」といったものが多い。その時に、理想のクラスがゴールであることを基に、課題を解決するためにより良い対策はどのようなものなのか、生徒たちは判断していく。



理想のクラス像を共有する様子

(2) 座標軸を用いて対策の良さを可視化

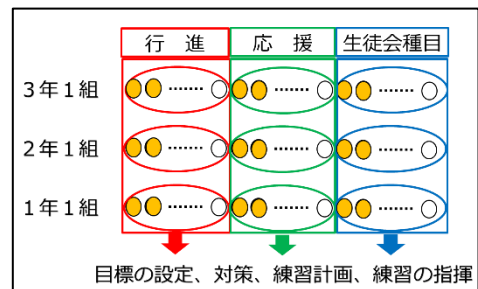
対策を決める段階で、生活班で話し合い、いくつかの意見が出てくる。それぞれの意見の良さを認めながら、取り組む対策を絞っていくとき思考ツールを利用した。座標軸を利用し、縦軸を「効果の高さ」、横軸を「取り組み易さ」として、この2つの視点でより優位（座標の右上）に位置づけられるものを実践することにした。生徒たちは自分たちの班の対策を学級の取組として採用されるようにと考える。他の班の対策と比較して考え、より優位な対策にするために、考えた対策の問題点に気づいたり、対策を改善したりしようと考えを深めることができた。



座標軸を用いて対策を絞る様子

★異学年集団活動～体育祭たてわりプロジェクト～

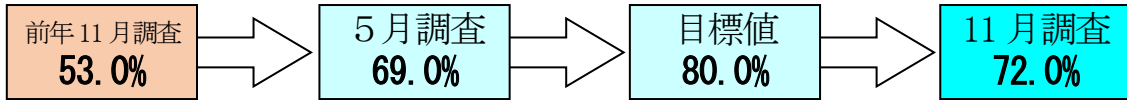
体育祭では、右の図のように、各クラスで「行進」を美しくすること、「応援」で盛り上げること、「生徒会種目」で勝利することを目的に3つのグループを作り、グループごとの兄弟学級で、練習計画や対策を考え、自分たちの力で練習を行う。そのため話し合い活動をたてわりアクションミーティングと呼んでいる。そこでの話し合いを通して、1・2年生は、先輩たちが話し合いや練習を行うために、司会や練習の進行をするする姿やこれまでの経験をもとに、よりよい意見を出していく姿に学ぶ。そして、その場だけでなく、自分のクラスでもより主体的に活動するようになっていく。



◆指標設定と達成に向けた取組

3 (生徒質問紙) 意見や考えがちがっても、相手の意見や考えを認めることができる。

指標 「①そう思う」のみ



★学級力向上アクションミーティングで「折り合いをつける力」を身に付ける

昨年度、学級力アクションミーティングに取り組んでみて、対策を決定する段階で十分に話し合いをとれていなかったということが、教員から課題としてあげられた。そこで、今年度は、2時間扱いとして、2時間目の授業では、考えた対策を全体で共有し、生徒たちが十分に話し合い、折り合いをつけて対策を決定する活動に力点を置いた。そこで、生徒だけで話し合いを進めることができるように、右のような「アクションミーティングで集団が成長するための心構え5ヶ条」

アクション・ミーティングで集団が成長する心構え5カ条

- 「みんなも自分も納得のいくより良い決定ができる」と強く確信する。
- 我慢したり友だちに合わせたりせず、自分の意見を相手に伝える。
- お互いの意見や気持ちをしっかり聞き合い、分かり合おうと努力する
- みんなも自分も納得いくように、たくさんのアイデアを考える。
- 課題改善のための対策になっているかを基準として、みんなも自分も納得のいくより良い決定になっているか考える。

を提示し、授業の最初に共有した。この5ヶ条にあるように、全員が納得することを基本としている。そのため、生徒たちは、反対意見を持つ生徒に理解してもらおうと、自分たちの考えた対策の良さを訴えたり、他の対策の問題点を挙げたりするなど意見を言い合う。時には、意見を強く批判するような場面もあるが、教師の姿勢としては、見守ることを基本としている。しかし、上手に人の考えを認めつつ、お互いに納得できるやりとりができなど、5ヶ条に挙げられているような生徒の姿が見られたときには、教師は積極的に称賛している。以下は、教師がその場や授業のまとめの中で生徒を称賛したものについて、話し合いの場面の様子である。

ある話し合いの場面の様子

時間を守ることに課題があるクラスが、チャイム着席ができるようになることを目的に、タイマーを取り付けることで、時間が意識できるようになるのではないかと考えて、話し合っている。

確かにタイマーがあった方がわかりやすいが、高校生になったことを考えるとタイマーなんてないから、学校の時計を見て動けるようになるべきだと思う。



A さんの言うとおり、時計を見て動けるようにならないといけない。けど、今、それができないから、タイマーをつけてほしい。

だから、タイマーなくてできるようになるためにやるのだから、タイマーなしで、みんなで声をかけたらい。絶対、できるようになる。



でも、できるようにならないかもしれないから、上手いかなかったらタイマーを付けて欲しい。

やってみてダメなら、そこでまた話し合って、タイマーつけとか方法を考えよう。



教師の称賛

- より理想の姿を考えて、発言できている。
- 他の意見の良さを認めている。

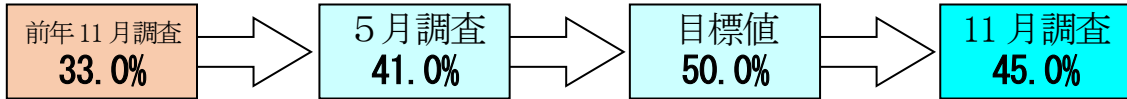
教師の称賛

- B さんは自分の意見をはっきりと伝えている。
- C さんは、B さんの意見を尊重し、B さんも納得できるような意見を言っている。

◆指標設定と達成に向けた取組

4 (生徒質問紙) みんなで決めた目標を達成するために、なかまに声かけをすることができる。

指標 「①そう思う」のみ



★生徒の主体性を伸ばす教師の基本姿勢

学級力アクションミーティングやアクションチャレンジ、たてわりプロジェクトなどでは、「主体」と「協働」の力を育むことを最大の目標としている。そのために、生徒の力で、計画、実践、反省を行えるようにカリキュラムを組み立てている。そして、教師は見守ることを基本としている。しかし、ただ見守るだけでは、「主体」と「協働」の力を高めることはできない。そこで、右のように、教師の基本姿勢をまとめ、教員全員で共通理解を図っている。

Team MINAMI project 「教師の基本姿勢」
一緒に計画をたて、先に指示を出さず、任せ、見守り、評価(称賛)、事後と一緒に振り返る

事前 「一緒に計画しよう」

- 何が必要か？
- どんな活動(練習)をするか？
- 事前の準備はいつするか？
- どんな問題が起きそうか？→どう対応するか。
- 前回の反省をいかす

授業中 「任せ、見守り、称賛しよう。しかし、全体が駄目になりそうときは、思い切って修正！」

- 生徒より先に教師が指示を出すことはやめる。
- 修正するときは、リーダーにその場で声かけ、もしくはリーダーをその場で集める。
- リーダーの良い指示やそのときの生徒の動きは積極的に褒める。
- 事前にイメージできていたことに戸惑っていたら、粘り強く見守ろう。
- 全体が駄目になると感じたときは思い切って介入する。
- * 基本姿勢を意識できていれば、教師がしてはいけない行動はない！

事後 「見守り、任せつつ一緒に振り返ろう」

- 何がいけなかったのか生徒の考えを確認
- ほかのグループや学年、クラスの困りや工夫を参考にさせる。
- 次の活動までの見通しを持たる。
- 縦割り活動後は、各クラスで、教師の思いを伝えながら、3年生やリーダーの動きを称賛する。ことで、意欲の向上につなげる。

★「働きかける力」を高めるための教師の支援 ～このような場面で教師は…～



1、2年生を巻き込んで活動することが難しい3年生のリーダーに対して、他のグループが写真のように、活動の途中で話し合いを取り入れている様子を見せてアドバイスする。



3年生だけが前に立って活動が進んでいるときに、1、2年生にも協力してもらえるようにアドバイスする。



話し合いの場では、グループ内の話し合いだけでなく、他のグループの工夫や困っていることを共有するようにアドバイスをする。

◆指標設定と達成に向けた取組

5 (生徒質問紙) 普段の授業で生徒の学び合う場を取り入れていますか。

指標 「①できている+②どちらかといえはできる」の合計



★数学の授業での取組

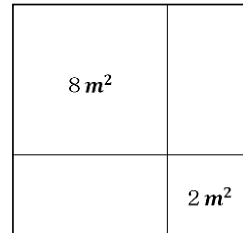
(1) 課題設定を工夫し、問題把握をグループで

問題文はある程度の読解力を必要とする長文にし、解答は1つではなく、いくつかの解答が出るような課題を設定する。グループで生徒そ

[課題1] ケイトくんは次の問題について考えている。

下の図のような正方形の土地があります。この土地の中に図のように面積 8 m^2 と 2 m^2 の正方形の花壇を作りました。元の正方形の土地の1辺の長さの求め方を考えよう。

ケイトくんは面積 8 m^2 の正方形の1辺が $\sqrt{8}\text{ m}$ 、面積 2 m^2 の正方形の1辺が $\sqrt{2}\text{ m}$ だから、元の正方形の1辺は $\sqrt{8+\sqrt{2}} = \sqrt{10}\text{ m}$ と考えました。ケイトくんの考えは正しいだろうか？



れぞれが自分の予想に併せて意見交換をし、友達の見解を聞くことで、問題の意図を把握できる。

(2) より深い理解につなげるために

様々な考え方が出される課題設定をしたことから、発表の場面では、いくつかの考え方が出される。そのことによって多角的なもの見方に気づくことができる。それに合わせ、説明するときは、正しい答えを説明するだけでなく、なぜ、正しくないのかという理由を図や式を用いて説明しながら数学的な表現を用いて説明することで、より深い理解をすることができる。



ホワイトボードを用いて発表する様子

★社会科の授業での取組 ～意見を持って話し合うための工夫～

この時間の学習課題は、「なぜ、エアーズロックは入山禁止になったのか考えよう」である。この課題に迫るためには、多文化社会についての理解が重要になってくる。そこで、以下のような資料を与えて、生徒たちに多面的な側面から考えさせる。

- エアーズロックの基本情報、○観光収入や産業について、○旅行会社の観光地人気ランキング、○エアーズロック周辺の状況、○先住民の心情や思想、○交通機関について、○気候や気象情報について

また、生徒の意見に変容を持たせるために、右の写真①にあるように、授業の途中に追加資料を提示しさらに考えを深めさせるように工夫している。生徒たちは、こういった資料を根拠に、エアーズロックの入山禁止に賛成か反対の意思を表明し、右の写真②にあるように、賛成、反対に分かれ、資料を根拠として、自分の意見を発表し合う。根拠を持って、意見を伝え合うことを通して、多文化社会の必要性やオセアニア州の地理的理解などについて考えを深めていくことができる。



①教師が様々な資料を提示する様子

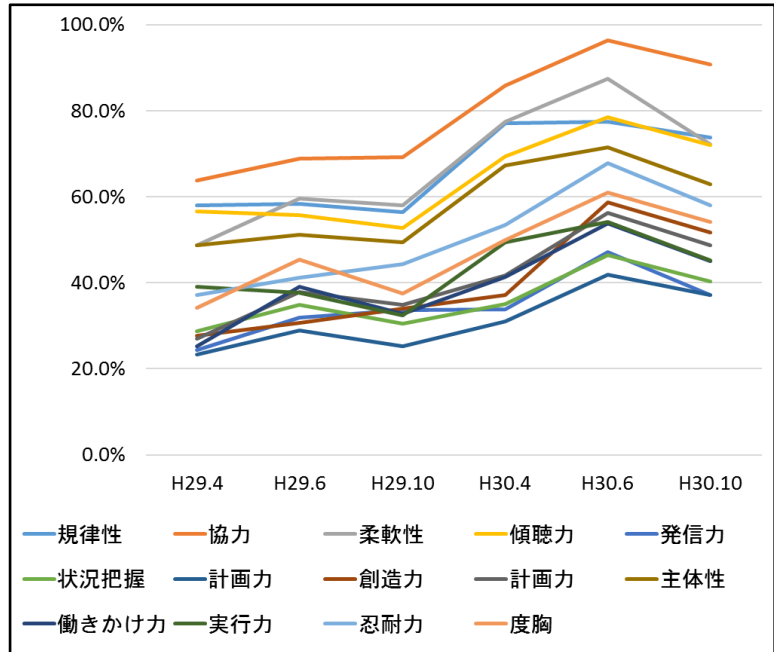


②賛成、反対に分かれて話し合う様子

IV 研究の成果と課題

1. 成果

4月、6月、10月に「笑顔いっぱい」愛し、愛される南中生アンケートを実施している。その内容は、社会人基礎力の12の力について、その力が高まっているかどうか問うものである。（設問についてはP2の（2）身に付けた力「社会人基礎力」を参照）「そう思う」と答えた生徒の割合をこの2年間での変化を見ると、右の図の通り、すべての力について、右肩上がりとなっている。



活動を通して身に付けさせたい資質・能力を教員も生徒も共通理解を図り、はっきりとさせて取り組んで来たこと、この2つが本校の取組に一定の成果をもたらした要因だと考える。生徒たちの様子を見ると、生徒たちは学校行事（体育祭や合唱コンクール）や学級活動の中で目標を立て、それに向かって計画を立てて、先輩、後輩や級友と協力し実践をする中で、成功体験だけでなく、困難や失敗を経験しながらも、意欲的に話し合っって問題解決に努める姿をたくさんの場面で見ることができた。また、話し合い活動を意図的に取り入れたことで、生徒たちは話し合う活動が習慣化し、そのことは、各教科にも良い影響を与え、様々な教科で話し合い活動は行われた。そのことは以下の職員アンケートからも見て取れる。

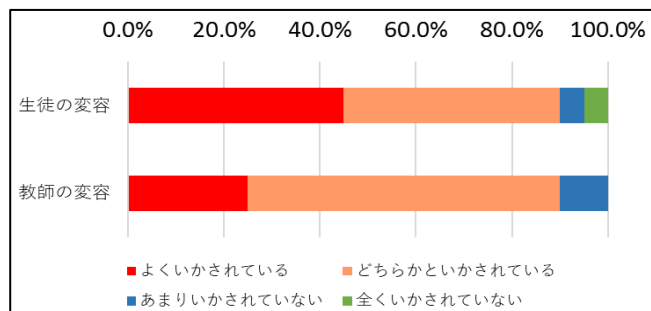
[職員アンケートの内容]

アクションミーティングに取り組んだことによる教科への影響（職員アンケート）

生徒の変容
設問 アクションミーティングなど話し合い活動が、教科の授業で生徒にいかされているか。

教師の変容
設問 アクションミーティングなど話し合い活動の研修が教師の意識の向上につながっているか。

[アンケートの集計結果]



2. 課題

これまでの2年間の成果をもとに、来年度からは次の4点を重点課題として取り組んでいきたいと考えている。

- (1) 教科におけるアクティブ・ラーニングの強化
- (2) 「深い学び」を実現するための研究の推進
- (3) 特別活動での取組を通して、個に対する支援の充実
- (4) 「主体」と「協働」を育む活動の日常化